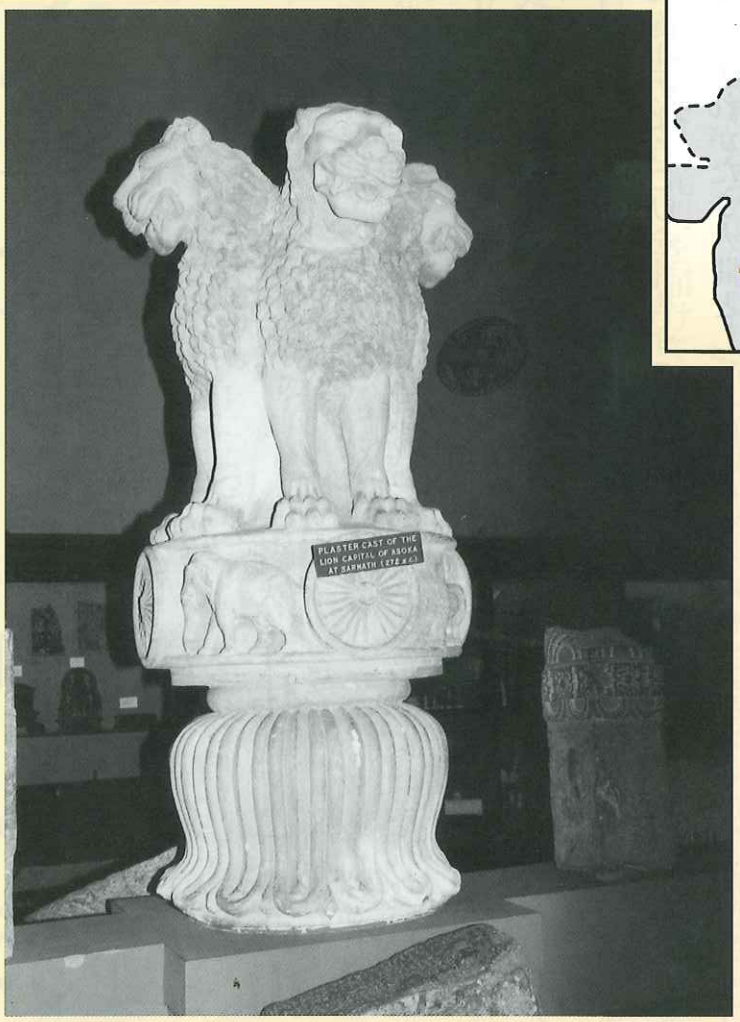
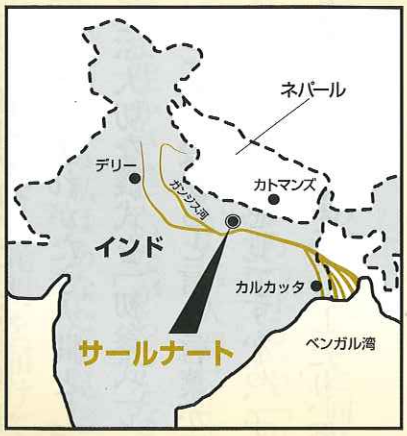
そほう
組報
かながわ
No.15 2002.3.15

身近なお寺の情報誌



（サールナート考古博物館所蔵　撮影：故 永野彌然）



アショーカ王柱（四頭獅子柱頭）

紀元前3世紀中頃、マウリヤ朝のアショーカ王は仏教に帰依し、その後仏法宣布に尽力し、後世に仏法を伝えるため石碑に詔勅を刻ませた。この石柱は、小石柱法勅といわれるもので、サールナートの仏教遺跡から発見された。王柱には、僧伽（サンガ）の分裂を戒める等の仏教教団に関する法勅が刻まれている。

尊く、大切な「仏縁」

善然寺住職　長谷山　顕俊

浄土真宗の儀式の中に、「初参式」があります。「初参式」というと、耳なれない言葉で「何でしょうか」と思う人が多いのではないでしょうか。「初参式」は　生まれた赤ちゃんが初めてお寺にお参りすることです。「初参式」というのは、単に赤ちゃんの誕生を祝い、健康で元気に育つように願ったりするのではありません。親として、我が子の人生の出発に当たり、決して崩れることのない依り所となり支えてくださる阿弥陀さまに誕生のよろこびを報告するのです。授かった尊い“いのち”である赤ちゃんとともに如来さまに手を合わせ、生まれがたき人間としてこの世に生を受け、あいがたき仏法にあえる人生が恵まれたことをよろこぶ大切な儀式を「初参式」と言うのです。

最近では、子どもを授かると言う言葉が聞かれなくなりました。子どもを作るとか、出来たと聞くことがあります。このような感覚ですから、子どもを親の持ち物のように思い、自分の都合で育てようとします。都合が悪いと子どもを虐待したり、邪魔になるから始末しようというような恐ろしい考えが出てくるのです。

いくら小さな赤ちゃんであっても、私と同じ一つの尊い“いのち”であるということを見失ってはならないのです。「授かるということ」から「作る」や「出来た」に変わっていくと、他の“いのち”を尊く思う心が希薄になってくるのです。生まれがたい人間に生まれ、沢山の“いのち”を犠牲にし、その上多くの人やもののおかげをこうむって生かされていながらこんなことでいいのでしょうか。

「どんなことがあっても私はあなたを見捨てません」と阿弥陀さまが呼びかけて下さいます。阿弥陀さまは、いつでも変わることなく光明を届けてくださいます。その光明は、智慧のすがたであり慈悲のはたらきであります。目先のことばかりに心を奪われ、煩悩にまなこさえぎられて、真実をみることのできない私であっても、常に見まもり照らしつづけてくださるのです。親鸞聖人は、『正信偈』に、「必至滅度願成就」（必ずさとりに至らせようという阿弥陀さまの願いが成就している）また「必至無量光明土」（必ず量り知れない光の世界お浄土に生まれ往く）と示されています。阿弥陀さまは、「摂取して捨てぬ、必ず救う」と迷いを迷いとも知らずに右往左往している煩悩丸抱えの私を目当てとして活動中なのです。

「初参式」は、子にとっての人生はじまりの仏縁ですが、親にとっても、親として生きる出発点であり、子によって与えられた阿弥陀さまの深いお慈悲の心に触れる尊い仏縁であります。死（葬儀）が大きな仏縁となるように生（初参式）もまた尊い大きな仏縁となるのです。

宗派の動き

御影堂平成大修復「瓦懇志」

本山の御影堂は、今から約三六〇年前の一六六三（寛永十三）年に建立されました。現在、「平成大修復」が一九九九（平成十一）年より十年計画で進められています。

すでに十一万五千枚のすべての瓦が降ろされ、小屋根（屋根裏）や大壁の解体・補修が行われています。降ろされた瓦は、検査され再利用できるものは再び葺かれます。残りの約八万枚は新たに造られる瓦（平成瓦）に代えられます。

この大修復工事の募財の一環として、新たな「平成瓦」に寄進者の氏名などを記名する「瓦懇志」の進納が全国に呼びかけられています。

進納者の思いとともに名前が記され、葺き替えを待つ平成瓦です。

＝修復協賛懇志の受付＝

「瓦懇志」は、修復懇志一万円以上を進納いただいた方の氏名（あるいは法名）を、このたび葺き替えられます新調瓦（平成瓦）に記名するもので、本山事務所での自書もできます。

また、懇志十五万円以上進納の場合は、瓦一面に自由に文字を記入することができます。さらに、十五万円以上の場合、ご希望の方に対して、「御影堂寛永瓦永代お預かり（木箱入り）」の制度（お扱い）もあります。

神奈川組の動き

■第六期連続研修会も後半に

連研（連続研修会）は、門信徒の皆さまに、浄土真宗のみ教えを体系的に学んでいただくことを目的に開催されています。二〇〇〇年十月十四日（土）から参加者百名で第六期がスタートしました。

今年は全十二回（偶数月の第三土曜日開催）の後半になります。

テキストは神奈川組で独自に編纂されたものを使い、講義と班別の話し合い（法座）を中心に進められています。第七期も予定されています。詳細はお寺にお問い合わせ下さい。

■神奈川組仏教婦人会「めぐみ会」

「めぐみ会」は、組内各寺院の婦人会の連盟です。毎年、総会・研修会を開催し、各婦人会の交流と親睦をはかっています。宗門関係の特別養護老人ホーム「あそか園」への清掃奉仕を行ったり、ダーナ（布施）活動として募金を行い、これを宗派を通して社会福祉に役立てる活動をしています。

■第三十回南ブロック　お寺の林間学校

毎年、神奈川・静岡・山梨三県から子供たちが集まり開催されています。今年は神奈川組が担当組になり、七月二十九日（月）～三十一日（水）、横浜市港北区新羽町「善教寺」にて開催します。対象は小学校三年から中学校三年までです。詳細は所属寺までお問い合わせください。

「仏教讃歌の練習」

■神奈川組仏教壮年会

組内の各寺院から集まった会員が活発に活動中。隔月に研修会を開催しています。昨年から宝光寺の藤田恭爾師による「お聖教に学ぶ」の講義が、上山大峻著「仏教を読む　釈尊のさとり親鸞のおしえ」をテキストにして進められています。どうぞ、仏教壮年会にご入会ください。

【二〇〇一年度慶弔】

▼慶賀

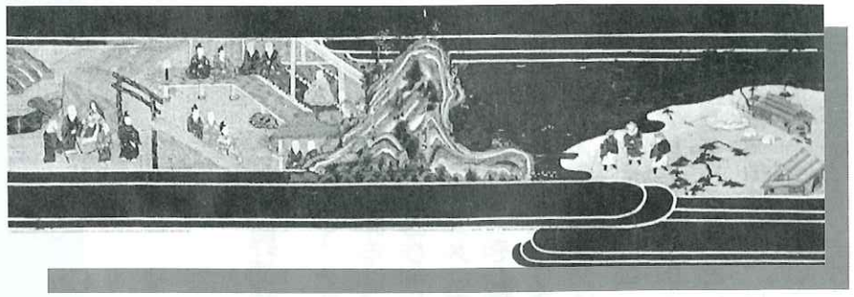
六月三十日
長徳寺観照堂落慶法要

十月十三日
最願寺住職継職奉告法要

親鸞聖人のご生涯 その3

親鸞聖人のご生涯を、ご絵伝を見ながらたどっていきます。
（前号からの続き）

特集



⑨【立教開宗】

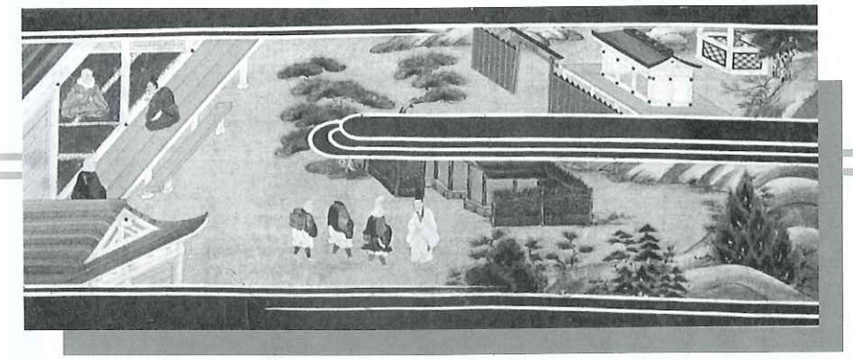
聖人は、北関東の下妻・小島・稲田などに住んで、20年にわたってお念仏の教えを伝えられました。

聖人52歳（1224年・元仁元）のとき、稲田の草庵で書き始められた『顕浄土真実教行証文類』は、浄土真宗の根本聖典として不滅の光を放っています。本願寺派ではこの年を立教開宗の年と定めています。

⑩【帰　　洛】

聖人は、62、3歳の頃、家族をつれて京都へ帰られました。

京都では、幕府による念仏禁止が続き、表だった教化もできにくく、住居も定まらないまま、後の世の人々のためにひたすら著述にはげまれました。『浄土和讃』『高僧和讃』『正像末和讃』『尊号真像銘文』などわかりやすい和文のお聖教もこの頃に著されています。

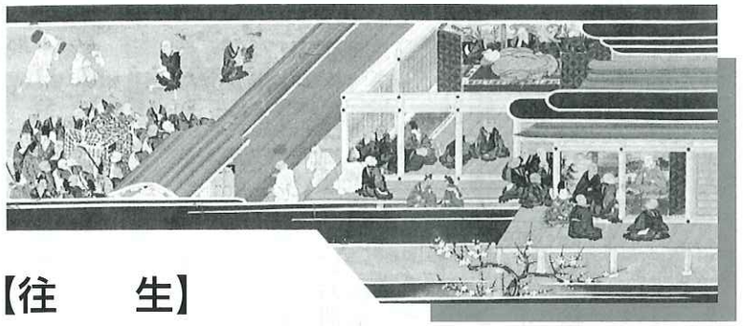


⑪【晩　　年】

聖人は帰洛の後も、関東のお同行に対しては、お手紙で念仏生活のありかたや教義を説かれました。

またかわるがわる関東から訪ねてくるお同行には、親しく面接されました。

しかし、晩年にはわが子の善鸞を義絶するという悲しい出来事もありました。84歳の聖人にとって、まことに断腸の思いであったことでしょう。

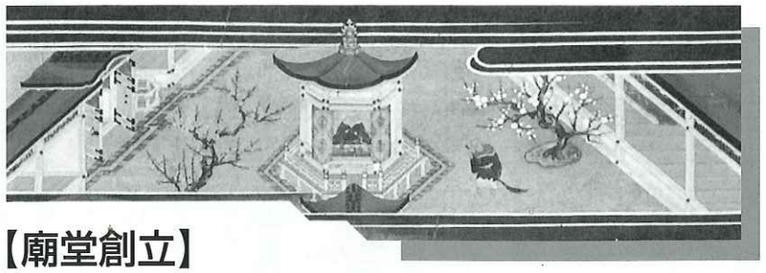


⑫【往　　生】

1262年（弘長2）善法院（現在の角坊別院）において、聖人はお念仏のうちにお浄土へ往生されました。90年におよぶご生涯は、まさに苦難の道でした。しかし、それがそのまま弥陀の本願を信じ念仏に生かされた真実の白道であったのです。

⑬【荼　毘】

親鸞聖人のご遺体は、11月29日、鳥部野の延仁寺において荼毘に付されました。ご収骨は翌30日に行われ、お墓は同じ東山の麓の鳥部野の北のほとり、大谷に定められました。



⑭【廟堂創立】

聖人のご入滅10年後の1272年(文永9)12月、大谷のお墓を改めて、吉水の北のほとりにご遺骨を遷し、御堂を建て、ご影像を安置されました。これが、本願寺の始まりであります。その5年後、親鸞聖人の孫娘の覚信尼が廟堂の維持役として初代の留守職となり、親鸞聖人血脈としての本願寺の基礎が築かれました。

法燈明

非戦・平和を考える

暗澹とした世界情勢

国家が人を裁く、その最たるものが戦争です。昨年は、戦争の話題の多い一年でありました。

九月十一日にアメリカで勃発した同時多発テロ。その報復のためにアメリカ軍とイギリス軍によるアフガニスタンでのタリバーンに対する戦争そして内戦。

日本では、小泉首相の八月十五日に靖国参拝をするとの公約から始まった靖国論議は、日本の戦後がまだ終わっていないことをはからずも明らかにしました。信教の自由と政教分離は国家が国民に保障しなければならない権利です。

そのことを一番よく知っているはずの政治家の認識の低さに驚かされたものです。

また、反テロ支援という大義名分の下で、自衛隊の派遣が実行されました。そして、暮れも押し迫ってから海上保安庁の巡視船による不審船の追跡と銃撃戦。ついには不審船の沈没という思いもかけないような事態となりました。

これらの出来事には、それぞれの事情があるのですが、なにかきな臭い渦巻きのようなものに日本自体が巻き込まれつつあるのではないかという不安を感じてしまいます。

仏教の思考方法

仏教は非戦平和を説きます。兵隊も武器もいらないと説きます。ところが、それでは非現実的だという指摘があります。しかし、私はそれで良いのではないかと思います。むしろ、宗教者の立場はそうでなければならないと思います。

イスラム教国とキリスト教国の戦争を見ていますと、宗教者が進んで武器を持ちます。タリバーンにしてもイスラム教聖職者が指導的立場にいました。また、アメリカではブッシュ大統領をキリスト教の伝道牧師として評価する動きが高まる一方であるとのことです。

宗教指導者が戦争という大量死を演出するとしたら、それは疑問です。

戦争では、正義という言葉が飛び交います。

アフガニスタンでは、テロ撲滅という大儀の旗のもと、空爆という殺戮が行われました。日本でも五十数年前までは武器をもって戦場へ出ることは美談であり、ほとんどの日本人は当時の戦争を正義の闘いと信じて疑いませんでした。

しかし、現代社会にあっては、情報を手に入れることさえできれば人間の判断する正義という概念の欺瞞性を明らかにすることは簡単です。ただし、それを言える社会であるかないかが問題ではありますが、少なくとも個人の段階では欺瞞かどうか判断することは可能です。

そこで個々人が、その判断の基準をどこに置くかが問題になります。

仏教は、その判断の基準を明示してくれています。人間の愚かさを指摘し、自分かわいさから身勝手な判断に傾きがちな私に、修正を加えてくれるのが仏教の思考方法です。その基準は国としての正義を判断する基準というよりも、個々の人間としてどのように生きるべきかについての判断基準であります。

仏教徒としての誇りを もって生きるということ

私たちは、仏教的思考方法をもっと大切にしていかなければならないと思います。

しかし、人間というものは愚かなものだと思います。人を裁いて生きていく、そして、自分をいつも棚に上げてしまいます。アメリカだアルカイダだなどと人ごとのような感覚で言っていますが、私たちの身の回りで、私たち自身がそれを繰り返しているのです。

よい人悪い人との判断も、自分にとって都合のよい人悪い人という基準で判断していることが往々にしてあります。そのときに自分自身を見つめ直す立場に身を置く時間が持てることが大切です。

正義をかたくなに主張する国々や組織のあり方に大きな矛盾を見る時、そのことを思わずにはいられません。他の宗教を批判する必要はありませんが、私たちは、仏教徒であることに誇りを持ち、常に仏教的思考の実践者でありたいものだと思います。

ちょっと一息

「一句一言を聴聞するとも、ただ、得手に法をきくなり。ただ、よく聞き、心中のとおり、同行にあい談合すべきことなり」と云々

『蓮如上人御一代記聞書』　第一三七条

最近では「談合」というと何か悪いイメージを持ちがちですが、ここでは、各自の仏法のいただき方を談じ合う事、あるいはその寄り合いという意味です。

私達は同じ仏さまのお話を聞いても、誰ひとり例外なくおのおのが自分の思いで、自分の都合のいいように聞いてしまいがちです。それゆえ、聞いて心に受け取ったことを、お互いに話し合い、確認しあう事が大切であると蓮如上人は仰せになられました。

神奈川組で開催されている連研（連続研修会）では、参加者が車座になっての話し合いが行なわれています。

これも、自身のいただいた仏法を話し合う大切な場となっております。

雑学門徒さの知っ帳 6

浄土の旅をともにせん

『往生要集』を著すなど、比叡山のすぐれた学僧として知られる源信和尚（942～1017）については、親鸞聖人も七高僧の一人として「正信偈」などで讃えておられます。

源信和尚は、実生活においては、『二十五三昧式』という、二十五人の仲間同士の規則書を作って、念仏生活を送っていたようです。

この規則の中には、毎月十五日に夜を通して、ともに念仏法座をもつことが定められています。また、仲間うちに病人が出たら交代で看病するとか、病気が長引くようなら往生院という施設を建て、そこで療養してもらう等、今でいう、病院という施設や、ホスピス・ビハーラ活動を先取りしたような事柄がうたわれています。

さらに、亡くなったら、みな一つの共同墓に納め、その名も「安養廟」とするなど、お浄土への人生を共に歩もうという姿勢を具体化していました。

仏事のこころえ

仏前結婚式のすすめ

昨年の和泉元彌さんの仏前結婚式に見られるように、近年仏前での結婚式を目にする機会が多くなってきました。

先般も、私の友人の仏前結婚式に行った時、たまたま外国の方がいらっしゃって、「仏前結婚式は至極当然の事だ」とすぐに納得されたのに比べ、日本人の友人の方に説明するのに苦慮した事がありました。やはり、仏前結婚式を目にする機会は、仏教徒が多い日本にあっても、まだまだ少ないと言う事なのでしょう。最近ではキリスト教式の結婚式が流行なのだそうです。

結婚式は、人の一生の中でも大きな節目となる行事の一つです。そのような人生の節目の行事には宗教的な儀礼が伴うことは世界中で共通することです。その依って立つ宗教が人生の節目によって変わることはむしろ不自然なことなのです。

無常の世を生きる私たち。しかし、その一つ一つが無駄ではないとお示しくださる仏さまの前で、大切な門出に気持ちを新たする事は意義のあることです。また、それは、ご両親を始め様々な方々にお世話になった事を思いかえし、そのご縁を大切にする事となるのです。

ポストエイオス研究会
インターネットのホームページを開設。
法話や仏教情報などのページです。
http://www.posteios.com

ビハーラ電話相談
―老いの悩み、病の苦しみに―
相談日▶毎週月・金／午後2時～5時
浄土真宗東京ビハーラ(築地本願寺内)
TEL.03(5565)3418

テレホン法話
電話で仏さまのみ教えを！
●築地本願寺こころの電話
TEL.03(3541)0282
TEL.045(662)5629
●長念寺テレホン法話
TEL 044(911)8282

『今だから伝えたい別れからの出発』 広島青年僧侶春秋会【編】

（法蔵館 2001） ¥1,300

編者の「広島青年僧侶春秋会」とは、広島県西部地域の浄土真宗寺院（本願寺派、大谷派、木辺派）の青年僧侶約100名からなる団体です。

本書の「あとがき」によれば、「いのちを理論や理屈のみで語るのではなく、「別れからの出発」という誰もが経験する実体験を通して、いのちを見つめなおすことができる視点をもてれば、という願いからこの企画が始まりました」とあります。このような趣旨のもと、「今だから伝えたい別れからの出発」というテーマで広く原稿を募集し、寄せられた480通ほどの原稿から、27編が掲載されています。

「広島青年僧侶春秋会」はホームページも開設しています。http://shunju.net

拠点としてお寺を訪ねて（14）

— 合わす手に 念仏の声 高らかと —

正楽寺（しょうらくじ）

川崎市幸区南幸町2—49

川崎駅西口から西に8分ほど歩いたところに正楽寺はあります。コンクリートの建ち並ぶ住宅街の中にたたずむ木造の本堂は、心を和ませます。この辺りは第2次大戦の空襲による火災で焼け野原となり、戦後の復興により今に至っています。

正楽寺は初代佐々木慶證（けいしょう）師が昭和初期この地に都市開教の拠点として南河原（みなみがわら）説教所を開設したのが始まりです。しかしその建物は戦災によって消失し、昭和27年に現在の本堂が再建されました。昭和42年に慶證師がご往生され、第2代泰博（たいはく）師が住職として就任しました。泰博師は、慶證師が戦後の厳しい経済状況の中で実施することができなかった本堂のお荘厳（おかざり）の整備を行いました。そして平成9年12月現住職俊博（しゅんぱく）師が法灯を継承され住職に就任。庫裏・客殿を新築し境内の施設整備を進めています。

現住職俊博師は、「これからの時代には、少年教化は欠かすことができない」との思いから、昭和50年11月より子どもたちを集めて日曜学校を月2回開催され、現在まで30年近くその活動は続いています。しかし最近では少子化の影響もありなかなか子どもたちが集まらないことが悩みだと語られています。この間、東京教区少年連盟委員長を6期12年間にわたり務められています。

そして俊博師は文書伝道にも力を入れられ、年４回ご門徒さんに出す法要の案内に「仏事のこころえ（お焼香の作法など）」を同封して送っておられます。

また、正楽寺では『21世紀の標語』として「合わす手に　念仏の声　高らかに」を掲げています。これは、「最近ご仏事の折になかなかお念仏の声が聞こえてこない。本堂がお念仏の声で満ちあふれるようなお寺を目指している」ご住職の大きな目標だそうです。

ご住職曰く「大きなことはできないけれど、小さなことからコツコツと」

5月3日永代経法要、7月盂蘭盆会（うらぼんえ）、11月3日報恩講法要などもお勤めされていますので、是非一度お参りされてみてはいかがでしょうか。

読んでほしいこの一冊

『歎異抄を生きる』 山崎龍明 著 （大法輪閣 2001） ¥2,500

著者は、法善寺（本願寺派）住職、武蔵野女子大学教授。

同書の帯紙には、「『とても地獄は一定すみかぞかし』『善人なほもって往生をとぐ、いはんや悪人をや』この恐るべき言葉に秘められた真実のこころとは…」とあります。同書は、多くの人々の生き方を変えてきた現代に生きている古典『歎異抄』の解説書であります。

内容構成は、

1　親鸞さんの言葉と教えに学ぶ—前半の十章
2　誤り（異義）から正しさを学ぶ—後半の八章
3　『歎異抄』原文&現代語訳

と、なっています。

『親鸞』 伊藤益 著 （集英社新書 2001） ¥660

著者は筑波大学哲学・思想学系助教授。専攻は日本思想。

副題に「悪の思想」とあることからも分かるように、『歎異抄』を中心に、人間が抱える「悪」という観点から親鸞聖人の思索を思想史上に位置づけていきます。その作業において「客観的」であろうとすることは「骨董趣味」でしかないと、自らの「いま」「ここ」に拘り親鸞聖人と対峙しています。

『いまを生きるための歎異抄入門』 佐々木正 著 （平凡社新書 2001） ¥740(税別)

著者は大谷派寺院住職。NHK文化センターでの歎異抄講座をもとに書き下ろされたもので、したがって歎異抄を原文に沿って解説していくが、類書の中で際だつ話材の広さを見せています。古今の文学、養老孟司、河合隼雄、井上洋治、加藤典洋、オウム、臓器移植など、多ジャンル他宗教の方々の言葉や話材が決して浮くことなく聖人の言葉を深める手助けとなることでしょう。

「これまでの研究書や解説書を開くことを自らに禁じて、文学や芸術や映画をはじめ、流れる日常風景の中にも＜内部＞からの光を見つけ出し、私たちが抱える緊急の生活課題と歎異抄との通路をつけてみたい」という著者の試みは成功しているとみえます。

『仏教が生んだ日本語』 大谷大学【編】 （毎日新聞社 2001） ¥1,334

今ではそれとは意識せずに使っている言葉が、もとを辿れば実は仏教に由来する言葉であった、という話はしばしば耳にすることです。

同書は、大谷大学の先生方の分担執筆による、雑誌『文藝春秋』に連載中の「生活の中の仏教語」というエッセーを、一冊の本にまとめたものです。合計152の言葉が取り上げられています。日常語になった仏教語を通して、仏教へのご縁を深めていただくのはいかがでしょうか。

『非戦』坂本龍一+sustainability for peace 監修 幻冬舎 （法蔵館 2001） ¥1,500

昨年末、『非戦』という本が出版されました。この本は、昨年9月に起きた同時多発テロ以降、ミュージシャンの坂本龍一さんがメーリングリストを通じて知り合った仲間と共にまとめたものです。

ロックバンド・グレイのTAKUROや作家の村上龍、アメリカ議会でたった一人武力行使決議に反対したバーバラ・リー 、そしてニューヨークの世界貿易センタービルで行方不明になった方の家族の手紙まで、人種も国籍も立場も違う様々な人々の論考や意見がこの本には収められています。それぞれの主張や信条は様々ですが、共通しているのは、「人を殺すな」「生き物を自分の利益のために殺すな」「子ども達の生きる権利を奪うな」という思いです。

わたしたちのお寺です

浄土真宗本願寺派　神奈川組

円光寺（えんこうじ）	〒210-0814 川崎市川崎区台町 4-21	
	石川　康承	☎044-266-2677
宝円寺（ほうえんじ）	〒210-0838 川崎市川崎区境町 5-10	
	飯田　琢亮	☎044-222-3941
光徳寺（こうとくじ）	〒210-0848 川崎市川崎区京町 1-14-3	
	林　信順	☎044-333-3997
正楽寺（しょうらくじ）	〒212-0016 川崎市幸区南幸町 2-49	
	佐々木俊博	☎044-522-1961
高元寺（こうがんじ）	〒211-0051 川崎市中原区宮内 4-3-12	
	宮本　義孝	☎044-777-6544
長念寺（ちょうねんじ）	〒214-0014 川崎市多摩区登戸 1416	
	小林　泰善	☎044-911-2549
常念寺（じょうねんじ）	〒215-0033 川崎市麻生区栗木 203	
	古市　道仁	☎044-988-0205
浄照寺（じょうしょうじ）（浄照教会）	〒216-0004 川崎市宮前区鷺沼 2-5-7	
	加藤　孝充	☎044-855-2780
善龍寺（ぜんりゅうじ）	〒221-0811 横浜市神奈川区斎藤分町29-51	
	斎藤　幸紹	☎045-491-9431
善教寺（ぜんきょうじ）	〒223-0057 横浜市港北区新羽町 2396	
	平等　勝尊	☎045-541-7684
教覚寺（きょうがくじ）	〒223-0057 横浜市港北区新羽町 2395	
	平等　真証	☎045-531-5050
光輪寺（こうりんじ）	〒223-0064 横浜市港北区下田町 3-2-9	
	村石　恵照	☎045-561-8671
東善寺（とうぜんじ）	〒224-0001 横浜市都筑区中川 7-18-29	
	長谷尾芳雄	☎045-911-3509
長徳寺（ちょうとくじ）	〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西3-9-1	
	平塚　大乗	☎045-911-7351
寿福寺（じゅふくじ）	〒224-0033 横浜市都筑区茅ヶ崎東1-7-1	
	多田　龍空	☎045-942-3721
最乗寺（さいじょうじ）	〒224-0034 横浜市都筑区勝田町 1277	
	日野　教昭	☎045-941-3541
慈恩寺（じおんじ）	〒224-0055 横浜市都筑区加賀原2-18-1	
	小泉　敬信	☎045-934-8648
西勝寺（さいしょうじ）	〒225-0003 横浜市青葉区新石川1-10-8	
	藤下　悌乗	☎045-911-0156
長延寺（ちょうえんじ）	〒226-0015 横浜市緑区三保町 2440	
	雲居　隆栄	☎045-932-3348
最願寺（さいがんじ）	〒230-0001 横浜市鶴見区矢向4-19-18	
	藤江　義昭	☎045-571-4694
宝光寺（ほうこうじ）	〒231-0062 横浜市中区桜木町 3-5	
	藤田　恭順	☎045-201-3509
善然寺（ぜんねんじ）	〒232-0061 横浜市南区大岡 2-26-17	
	長谷山顕俊	☎045-741-2351
宣正寺（せんしょうじ）	〒232-0063 横浜市南区中里 3-20-18	
	早島　大英	☎045-731-2679
清来寺（せいらいじ）	〒241-0034 横浜市旭区今宿南町 1895	
	曽我　求真	☎045-951-0012

本願寺築地別院都市開教布教所

横浜布教所	〒240-0065 横浜市保土ヶ谷区和田2-12-19	
	開田　蓮成	☎045-341-7455
三ツ境布教所	〒241-0816 横浜市旭区笹野台 3-9-9	
	寺田　崇裕	☎045-364-2266
磯子布教所	〒231-0835 横浜市中区根岸加曽台25-47	
	中戸　達雄	☎045-623-4480

地域内の東京教区寺院

中組（なかぐみ）妙延寺（みょうえんじ）	〒215-0002 川崎市麻生区多摩美 1-27-1	
	山本　浩真	☎044-966-5304
西組（にしぐみ）覺永寺（かくえいじ）	〒225-0004 横浜市青葉区元石川町 6391	
	喜代多證宣	☎045-901-0570

「神奈川組（かながわぐみ）」とは…

私たちの教団（浄土真宗本願寺派）は、全国に一万余りの寺院を擁し教団独自の地区割をしています。その一番小さな単位を「組（ぐみ）」といいます。神奈川組は、川崎市と横浜市中部と北部の寺院によって構成されています。

浄土真宗本願寺派東京教区神奈川組

組　長／林　信順

教区会議員／曽我　求真
金子　貞夫（門徒）

副組長／斎藤　幸紹
副組長／小林　泰善

相　談　員／早島　大英
相談員補佐／藤江　義昭
古市　道仁

お手々のしわとしわをあわせて…しあわせ

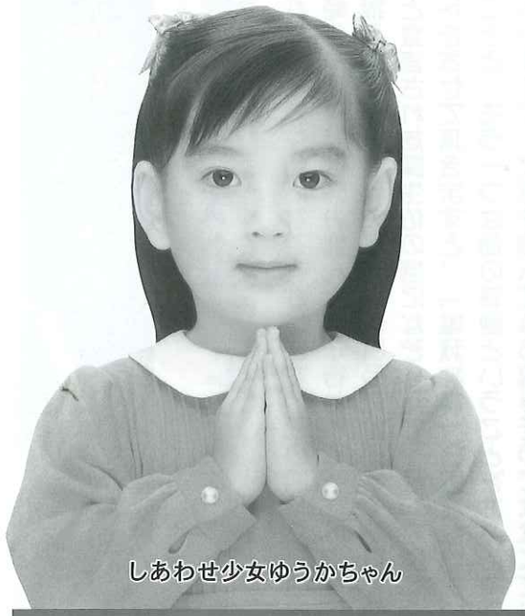
日本の美・日本の心をお届けします。

お仏壇のはせがわ

お仏壇のはせがわ

昭和59年　京都西本願寺阿弥陀堂昭和大修復事業
昭和62年　京都清水寺開山堂御厨子三重塔堂内修復事業
昭和63年　福岡証券取引所業界初の株式上場
平成6年　大阪証券取引所第2部株式上場

製造部
(株)はせがわ美術工芸（国宝美術品、寺院神社）
(株)長谷川仏壇製作所（純金箔仏壇）
江川木工(株)（唐木仏壇）
(株)長谷川唐木仏壇製作所（唐木仏壇）


しあわせ少女ゆうかちゃん

業界初の上場企業
関東地区89店舗・全国で136店舗

～お仏壇、お仏具等～
特別価格
大ご奉仕中!!
※セール商品は除きます。

墓石・霊園も
好評お取り扱いしております。

横浜・川崎地区の店舗ご案内

金沢文庫店	横浜市金沢区谷津町352-7 オオサワヒルズ1F	0120-876-768
上大岡店	横浜市港南区日野5-1-25	0120-767-628
戸塚店	横浜市戸塚区柏尾町440-1	0120-767-627
今宿店	横浜市旭区今宿東町1621	0120-767-658
新杉田店	横浜市磯子区杉田1-2-3	0120-484-883
長津田店	横浜市緑区いぶき野3-1	0120-744-194
鶴見駒岡店	横浜市鶴見区駒岡町4-23-4	0120-176-761
日吉店	横浜市港北区日吉3-4-8 リバーサイド日吉	0120-639-010
鷺沼店	川崎市宮前区東有馬1-1-19	0120-876-768
川崎店	川崎市川崎区東田町2-1	0120-767-577
町田森野店	町田市旭町1-8-20	0120-768-201
向ヶ丘遊園店	川崎市多摩区登戸1763　ライフガーデン向ヶ丘	0120-594-345

営業時間／午前10時～午後7時　日曜・祝日も営業いたしております。

一茶の俳句から

竿(たけのこ)も名乗(なのる)か唯我独尊(ゆいがどくそん)と

お釈迦さまの生まれたばかりの、誕生仏に甘茶をかけます。その四月八日の花祭りの行事というのは、既に一茶の時代、江戸では随分盛んに毎年行われていたのです。竹の子がニョキッと出たその瞬間を捉えて、自分も竹の子だよという、自ら名のる姿を、お釈迦さまが「天上天下唯我独尊」と宣言された誕生仏の姿になぞらえて、詠っていると思います。

ただ私がちょっとコメントをさせて頂きますと、「唯我独尊」と宣言されたのは、自分こそ偉い者はいないということと、もう一つは命の尊厳ということをおっしゃろうとした、というふうに解釈する人がおりますが、文献を調べてみる限りそうではなくて、この地上に出現した私は、「自利即利他」の実現のためにはたらくから、私は世界の第一人者である、と宣言した。もちろん、お釈迦さまのその後の活動が「利他」、世のため人のためにするという働きで貫かれていますから、それを先取りして、生まれたばかりの誕生の宣言に、お釈迦さまの伝記を作った人々が盛り込んだわけです。ですから、この「唯我独尊」つまり我一人尊しというのは、私は世のため人のためになる人間となるからこそ、世界の第一人者であると、そういう意味でしょう。

この句は、自分も一人前に世のため人のため、すくすく伸びたいという気持ちがあるんだよ、という意味に受け止めるほうが、誕生仏の宣言の精神に叶うのではないだろうかと思います。

早島鏡正著『念仏一茶』
四季社刊より

浄土真宗本願寺派（西本願寺）

横浜市都筑区勝田町1277
最　乗　寺
〒224-0034　電話045－941－3541

組報かながわ No.15

■発行日　2002年3月15日
（毎年1回3月発行）

■編集発行　浄土真宗本願寺派
東京教区神奈川組
基幹運動推進委員会

〒210-0848 川崎市川崎区京町1-14-3 光徳寺内